

13-12 旋削技術を応用した 木製引手の研究試作

末 吉 光 雄

1. 目的

民芸調家具を対象とする木製引手の開発及び量産過程における均一製品の確保に関する治具製作の実用化研究

2. 概要

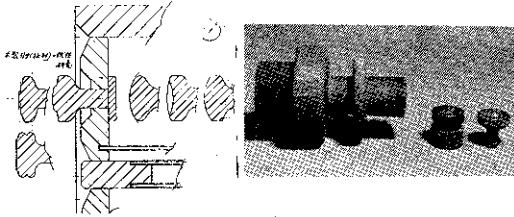
県産材の高度利用化研究の一環として「分止り」率の良好な木製引手の開発を試みたものである。木製品引手の需要はその材質感の持つ感触性豊かな適性品が市場で特に不足しているのが現状であり製品開発の高品質化が進む中で市場性は高い、この為充分な技術移転の対象ともなり得ると考え量産用治具の開発と併せ考慮したものである。

- 刃物安定用治具
旋削刃物の安全性を図るため長尺刃物が必要
- 各種加工機器の総合利用
倣い旋盤、昇降盤等多角的に併用して構度を高める方法
- サイズ測定用治具
均一品を正確に量産するための各種測定用具の必要性
- 研磨法の研究
ペーパー番数の各種利用を図り使用順位の厳守の必要性

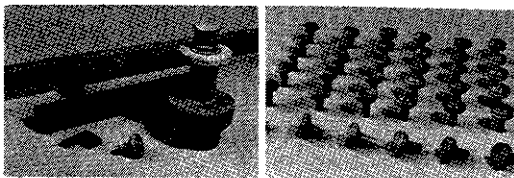
3. 経過

• 製作用図面の一例

• 試作用治具



• 製品試作



4. 成果

製品化については、左写真のとおりであり治具の開発次第で短時間で製作可能なことをつかみ得た。

なお治具開発における条件として次の諸点が上げられる。

- 機器の調整
回転軸、受着板、テーブル水平レベル等の調整
- セッティング用治具
写真のとおり木製リングの製作により装着用ラッパ管の製作が必要